



あけましておめでとうございます

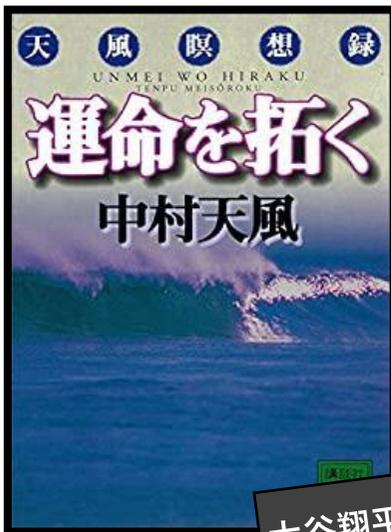


みなさんは、冬休みは、どのように過ごしましたか？
私はひさしぶりに『羽子板』で遊びました。羽をつくると、コーン！コーン！と高く、懐かしい音がします。
昔の遊びもいいものです。ぜひ、機会があったら、みなさんも遊んでみてください。

世界最高の投打二刀流！！米大リーグでMVP獲得！

大谷翔平に迫る！！

昨年末、多くの賞を獲得した大谷翔平。『心・技・体』すべてにおいて卓越した力は、一体どこからくるのか？大谷翔平が高校時代に作っていた81マスの目標達成シートには、「本を読む」という項目があったそうです。大谷翔平の「心」の部分育てた彼の愛読書をご紹介します。



愛読書①中村天風の著書『運命を拓く』

中村天風は、松下幸之助（パナソニック創業者）、原敬（首相）らの多数の政治家や実業家たち、稲盛和夫（京セラの創業者）らの財界人をはじめ松岡修造らのアスリート、芸術家たちにも影響を与えている哲学者。

中村天風は、若くして病気をわずらうものの、さまざまな修行により、病を克服。そんな多難な人生を歩んだからこそ天風は、「人生は心一つの置きどころ」と説いている。

（→心が積極的に動くのと消極的に動くのでは、天地の差ほどの違いがある。）

ひら

大谷翔平は、これらの本を何度も繰り返し読んだという。



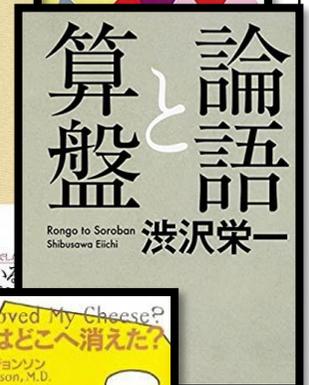
愛読書②アンドリュー・カーネギーの著書『富の福音』

スコットランドの貧しい織物職人の子として生まれたカーネギー。鉄道のレールや機関車や鉄橋を造り、アメリカの「鉄鋼王」として大成功。そして、そこで手にした財産のほとんどすべてを、学校や図書館などの慈善活動に使った。そんなカーネギーの説く、資本家の真の姿とは？！



愛読書③稲盛和夫の著書『成功への情熱』

パナソニックの創業者であり、破綻しかけた日本航空（JAL）を立て直した実業家。「熱い思いを持ち、努力をすれば、夢は叶う！」と背中を押してくれる1冊。



愛読書④渋沢栄一の著書『論語と算盤』

昨年の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公・渋沢栄一の不滅の名著！中国の古典『論語』を学び、個人の利益だけを追求するのではなく、「みんなの得になる社会をつくるにはどうするべきか」を説く。

愛読書⑤スペンサー・ジョンソンの著書『チーズはどこへ消えた？』

2匹のネズミと2人の小人が迷路の中に住み、チーズを探す物語。チーズは、「人生において私たちが追い求めるもののシンボル」として描かれている。2匹と2人の状況・環境がさまざまに変化する中で、彼らがどう行動するかを、私たち人間に置き換えて読んでみよう！

